

### 第3部：糸賀雅児 vs 猪谷千香

糸賀：みなさんこんにちは。第1部第2部と続いてまいりまして、第1部は海援隊の成り立ちを、そして本当に鳥取の夜の事を私も思い出しましたがけれども、第2部では正に今の図書館界の図書館女子力の高さを見せつけられました。本当にいろいろと図書館海援隊のこれまでの活動についても突っ込みがあったりとか、最後は暖かい応援部。言ってみれば小林さんが言った海援隊の中もいくつかの派生ユニットがあって、じゃあ図書館海援隊も応援部があるそうです。いずれにしましても、第3部最後なんですよ。第3部はもう1部2部と続いてまいりまして、最後別冊付録のようなもんですから言ってみれば。

猪谷：はい。おまけで。

糸賀：1部2部とああやってみなさん楽しんでいただきまして、最後はいよいよもう少しゆったりと大喜利の時間でいきたいと思います。どういうことになるかよく分かりませんが、特に第1部高橋さんは図書館の現場に居ていろいろと実務に直接関わる話。第2部のお二人は正に図書館の第1線でご活躍。さて、第3部のわれわれは？

猪谷：何をしましょう。

糸賀：2人とも図書館に勤めてるといってわけではありませぬので、言ってみれば何て言うかな、外野席というわけでは決してありませんが、図書館にかなり猪谷さんも片足突っ込んでるところかも両足。

猪谷：そうですね。ずぶずぶな感じで。

糸賀：でも普段図書館のカウンターの内側にいる人間ではない2人から見て、図書館海援隊、これからどういうふうにしていったらいいのか。その方向性を探りたいというふうには思うんですよ。ただそれにしても、このところ本当に猪谷さんと私よくお会いしますね。

猪谷：先生のかばん持ちで全国付いて回っております。

糸賀：ちょうど1週間ぐらい前も2人で一緒でしたね。

猪谷：山形県の川西町というところに呼ばれました。作家の井上ひさしさんのご出身のところで、町立図書館と併設して、井上さんの蔵書が寄贈されている遅筆堂という文庫があります。そこで毎年、「生活者大学校」として、いろんなテーマでいろんな識者の方をお呼びして、2日間にわたって泊まり込みでお勉強するという講座がありまして、糸賀先生と私と呼ばれました。

糸賀：テーマが地域と図書館。今も出ました作家の井上ひさしさんがご本人の本を寄贈されて川西の町立図書館が出来上がっております。だから寄贈された本と、もともと川西町で収集したコレクションとが一体となった図書館で随分立派でしたね。

猪谷：管理が難しそうでしたけど。井上先生の本にはいろいろ貼っちゃいけないとか。

糸賀：そう。本のいわゆるラベルだとか蔵書印だとか、ましてやバーコードなんていうのはとんでもないと。本の元の姿で大事にするということで、いわゆるブッカーって言うかな、ラミネートのカバーもかけない。そんでもっていわゆる本の帯、これちょうど「つながる図書館」の本の帯があるな。この帯をちゃんと大事にするということで配架されてるんです。だからなかなかちょっと図書館員としては扱いにくいようなところもあるんじゃないかな、というふうには思いましたけど。

他にこの前、あれは6月ぐらいでしたっけ、情報ナビゲーター交流会。

猪谷：はい。呼ばれました。

糸賀：あれでも一緒でしたね。

猪谷：そうですね。

糸賀：それから私ども慶応にも来ていただきまして、慶応義塾が公開講座港区民大学、それにも。

猪谷：ありがとうございます。

糸賀：初日最初が私で次のコマが猪谷さんという。

猪谷：でしたね。

糸賀：お互いに次何言うか大体もう分かってきたんです。

猪谷：明後日もご一緒ですよ。

糸賀：明後日も一緒です。

猪谷：そうです。

糸賀：明後日、図書館総合展。

猪谷：今度は教育委員会制度改革のフォーラムで一緒させていただく予定です。

糸賀：ご家族と一緒にいる時間よりも私と一緒にいる時間のほうが長いっていいことはないですね？

猪谷：かろうじて大丈夫です。

糸賀：ということでして、今日何をやるかということで、第1部第2部はどうも入念に打ち合わせをして極めてスムーズに対談が進んでたんですが、第3部はお互いに忙しいということがありまして、あんまり打ち合わせしてないんです。私は前々から猪谷さんと2人でやるんだったらこういうことをやってみたい、という夢があったんです。すいません、ちょっと海援隊から外れちゃうんですが。2人だったらこれできるんじゃないか、ということをお今日やってみようかと。ぶっつけ本番なんです。

何かというと、よく図書館で最近ビブリオバトルってやりますね。本の紹介合戦です。ビブリオバトルは本を紹介するんだけど、われわれ2人だったら本を紹介するんじゃなくて図書館を紹介し合ってみようと。でもって2人がお勧めする図書館のうち、会場のみなさんに話を聞いてどっちの図書館に行ってみたくなったか。これで勝敗を決するという、本邦初のビブリオバトル図書館版っていうのを今日突然ですがやってみようと。会場の人にも参加する。

猪谷：本当に打ち合わせしてないんで、お手柔らかにお願いします。

糸賀：お題は会場のみなさんから頂戴したいと思います。ちょっとルールを一つだけ。ルールって言うか、どこそこで一番いい図書館とかっていうのは、ちょっとこれは難しいんでなしにしてほしい。だから例えばこれこれユニークな図書館とか、あるいはこういう面で猪谷さんから見てお勧めの図書館、あるいは糸賀から見てお勧めの図書館っていうことをちょっと2人で即興でやってみたいと思います。

これはそれなりに各地の図書館を見てないとできないんですよ。そういうこともありまして、猪谷さんと私だったらきっとできるかもしれないと。

猪谷：そうですね。

糸賀：とにかくやってみようということなんです。例えば、まずはレディーファーストとか、女性、特に猪谷さんがたぶん挙げやすいようなテーマで言えば、子育てをしているようなお父さんお母さんにとって優しい図書館って言ったら、何かユニークだとかお勧めの図書館を挙げていただく。当然私もおんなじお題で一生懸命考えますが。

これまでに行った図書館、北は北海道から南は九州沖縄、場合によっては海外の図書館でもいいとは思いますが、どこかここがユニークだ、お勧めだっていうのを紹介してみよう。

他にも例えばこういうのもいいんですが、レストランがおいしいとかカフェがお勧めだとか。この日比谷図書文化館もレストラン「ライブラリーカフェ」っていうのかな？入ってますよ。

猪谷：カフェがありますね。

糸賀：だから今日日比谷が会場なんで、日比谷は引き分けになっちゃうんで挙げないで、全国で例えば今言ったようにレストランがお勧めだとかユニークだとかっていうようなところを挙げる。こういう例題でいきたいと思います。みなさんの方でも、じゃあこんなのはどうかっていろいろ考えていただく間に、まずは今挙げた、子育てをしているお父さんお母さんに優しい図書館、いかがでしょうか？

猪谷：そうですね。私は今、3歳の子を育ててまして、割と図書館に子連れで行くことが多いです。仕事で文献探したり、作業するために行って、子どもを野放し、「放牧」することもあります。大人の場所と近かったりすると、ドキドキしますね。他の方に迷惑掛けるんじゃないか、心配になります。そういう母親として見た場合に、一番使いやすかったのは千代田区立千代田図書館です。あそこは、区役所の9階10階に図書館が入ってるんですけど、10階部分に子どもの絵本とかがある部屋がありまして、ガラスで仕切られてるんです。なのであまり音漏れもしないし、大人たちが使うところとは区切られているんですけども、ガラス張りなので見やすい。それから、靴を脱いで上がるフロアになってまして、授乳室とか子ども用のトイレもその同じレベルで使えるんです。要は、いちいち靴を履いて外のトイレまで出ていなくていいっていうのがすごく楽でした。

私は育休を1年取ったんですけど、その期間も貧乏症なので、ちょっとした調べ物をしたり、原稿を書きためたりしていたんです。そのときに、家だとちょっと集中できないので、千代田図書館行って、そこでうちの子どもをハイハイさせていながら、自分は床でパソコン打ってる、みたいなことをしていました。それから、千代田図書館のプラスアルファとしては、私は区民じゃないんで使えなかったんですけど、託児サービスがあるんです。1時間500円で。それはすごくありがたくて、子連れで図書館にいらっしゃる方が多いと思うんですけど、親も本を見たいんですよ。調べものをしたいんですよ。だけど、子どもがいるとなかなか大人のフロアに行けないし、静かにゆっくり見られない。その間、例えば30分でも1時間でもいいから、子どもをちょっと見てもらえるっていうのがすごくうれしくて。ぜひ全国に広まってほしいな、と思ったのが千代田図書館でした。

糸賀：ありがとうございます。千代田図書館、2つのフロアに分かれてるうちの上の方のフロアですね。分かりました。私から子育てに優しいっていうかユニークな図書館という意味では、大分県の豊後高田市立図書館っていうのは面白かったです。さっき宇佐の島津さんも登壇されましたが、宇佐の図書館からちょっと離れてるんですけど、隣りぐらいいかな、豊後高田。去年だか一昨年ぐらいオープンしたんです。何が面白いかって、そこに授乳室というか、子どもさんが泣いたときにちょっと入ってあやしたりする部屋の名前

が、本当に「イクメン室」って言うんですよ。もともと男の人も入るだろうっていうことで、あそこは「イクメン室」ってガラス張りのところに大きく書いてあるんです。あれは、私ほぼ全国の図書館を回ってるけど、あそこぐらいしか見たことないです。本当にちょっとユニークで変わってて、男性で小さな子どもさんを連れて入ってくることもできるし、そういうふうな配慮があるっていうのがなかなか面白かったです。あれは冗談半分で職員の人が出たら本当に採用されたと聞いております。

さて会場のみなさん、いかがでしたでしょうか？これはもう拍手をもって決めたいと思います。千代田図書館に行ってみたいという方拍手をして下さい。(拍手) ありがとうございます。じゃあぜひイクメン室を見に行ってみたいという方拍手して下さい。(拍手) ほぼ同じぐらいですね。

猪谷：そうですね。ありがとうございます。

糸賀：それではまだまだ時間があります。お題がたくさんもらえると思うんですが、まだ会場の方に考えていただいている間に、さっきのカフェとかレストラン、図書館の中にあるカフェやレストランでこれはユニーク、お勧めというのを。

猪谷：島根県の離島、海士町の図書館は良かったです。海士町は司書の磯谷さんの手作りのカフェがありまして、本当にちょっとしたコーナーなんですよ。ソファが2、3個あって、雑誌が置いてある仕切られたスペースで、そこにコーヒーが置いてあって、販売ではなく、50円寄付でお願いしますっていう感じなんです。本当にちょっとしたところなんですけど、すごく安心するというか、そこでちょっと1杯お茶飲むためだけに寄られる方も多いらしくて、すごい立派なカフェがある必要はないんだなって思ったんです。

カフェ併設とか言い出すとややこしいのかもしれないんですけども、ちょっと大目に見ていただいて、そういったコーナーがあるとうれしいなと。ちっちゃい図書館だったらできるんじゃないかなと思います。

糸賀：ありがとうございます。私もそこは行って実際にコーヒーをいただきました。もう本当に手作りの雰囲気、あれは来館する人への図書館側のおもてなしってな感じで用意されています。

でもおんなじところを挙げていたんではバトルになりませんので。私としては、むしろ猪谷さんは武蔵野プレイス辺りを挙げられるかな？というふうにも思ったんですが。意外なところで。

猪谷：武蔵野プレイスも好きです。いつもスライドでご紹介するときはパンケーキの写真を入れているんですけど、本当においしくて。でも逆に言うと、あまりに町のおしゃれなカフェっぽく過ぎて、ちょっと敬遠してしまいました。

糸賀：そうですか。だったら私は、また九州になっちゃうんですけども、長崎市立図書館

の正面入口の左手にガラス張りである池田屋っていうレストランです。カフェでありレストランで、あれは本当にあそこのカフェだけ行くのも楽しみになるようなところですよ。日替わりランチがありまして600円か650円ぐらいなんです。限定35食。これは本当においしいし値段も手頃。とにかくお店の雰囲気がいいし、そこで図書館の本を借りてきて読むことももちろんできる。あのカフェは正直言って行列ができるカフェなんです。長崎市立図書館にもしも見学とか視察にいらっしゃる方は、絶対に食事はあのカフェに立ち寄られたらいいと思います。池田屋さんっていうんですよ。別に京都の池田屋とは違いますよ。関係ない。海援隊とは関係ないんですけども。でも関係あるのかな？長崎で。よく分かりませんが。

もちろん今全国的に食事ができる、あるいはコーヒーが飲めるところも増えてきてますよ。けれども長崎市のあるところは、もうあのカフェに行くだけでもなかなか面白いかな、というふうに私は感じてます。

猪谷：余談なんですけど、秋に全日本博物館学会というのがありまして、私はもともと学芸員有資格者で、博物館や美術館の話の方が専門だったこともあって、顔出してみたんです。博物館にも指定管理者が結構入ってまして、とある先生が指定管理者導入以前と以後の博物館の事例を挙げて、どういうふうに変ったかを、いくつかの指標で調査をされたという発表があったんです。

そのうちの指標の一つが、カフェが入っているかどうかというものでした。これ、どうしてカフェなんですかと、学会長の先生に雑談で聞いたところ、欧米だともミュージアムにカフェがあるのは当たり前だと。じゃないと長く滞在してもらえないっていうことがあるらしいんです。これが博物館や美術館の世界では当たり前になってきているのかなと感じました。たぶん、図書館も同じような流れかなと思うんですが。

糸賀：そうですね。滞在型っていうことを考えたときに、カフェがあったり食事ができたりっていうことはすごく大事なポイントだと思います。それで今の猪谷さんの話聞いて思い出したのは、そういう滞在型でカフェっていうかな、お茶も飲めるし食事もできる、しかも見晴らしがいい、展望がいい。これ大事なことですよね。そういう意味では今日たまたま会場にもいらしたんですけども、東京都立中央図書館、有栖川のあそこの6階。ただし味の方は？桜が咲く頃、お花見に絶好なんです。だからおいしいお弁当を買ってあそこで花見をするといいかもかもしれません。

ということで、島根県の海士町の図書館にぜひカフェに行ってみたいという方、拍手をお願いします。(拍手)ありがとうございます。じゃあ私が推薦しました長崎の市立図書館、池田屋さんにぜひ行ってみたいという方、拍手をお願いします。(拍手)

猪谷：これも大体一緒ですね。

糸賀：なかなかいい勝負です。みんな優しいね。

猪谷：優しいですね。

糸賀：じゃあぜひ、会場の方からこういう図書館でお薦めありますかっていうのを、どなたか手を挙げていただけませんか？どうぞ。

山田：熊本県の山田です。お題は、夕日がきれいな図書館。

糸賀：夕日ね。つまり図書館から海が見えなくちゃ。別に夕日だから海が見えなくてもいいのか。そうね。山に沈む夕日でもいいんですね。でも、できれば太平洋に沈む夕日が図書館で見られるというのは…ちょっと待って。

あの図書館がいいんだけどその図書館の名前が思い出せなくなっちゃうっていうことがあるんです。それで今日はちゃんと「日本の図書館」を持ってきたんです。だから図書館の名前を調べるときにこれで調べようと。

これには余計な情報は入ってませんから、夕日のきれいなっていうのは出てこないんです。でも今思い出した。図書館の名前が思い出せないときにこれ見るつもりでしたが、思い出せました。どうも九州ばかりになっちゃいます。宮崎県の宮崎市立佐土原図書館。これは本当に高台にあるんです。太平洋に面してて、そっから見下ろせるんですよ。だから西の方向があ図書館の海に向かってこっちだから、右の方向にたぶん日が沈むはずで。私、夕日のときに見に行ったことはありません。

それから、だんだん思い出してきました。私が見た中で本当に夕日のときに見たのは、広島県尾道市。尾道って合併して瀬戸内海にある島も含んじやったんですよ。あの中の因島図書館。これはきれいですよ、本当に。私は実際に夕日が沈むとき見ました。写真も持っています。今日はちょっとお見せできませんけども。因島の図書館から見る夕日は、瀬戸内の島がずっと見えるんです。しかもしまなみ海道瀬戸大橋がずっと見えるんです。これはきれいですよ。絶対お薦めです。

猪谷：難しいな。

糸賀：小林さん、どうですか。

小林：正に「つながる図書館」。じゃあ、僕の意見です。島根県の出雲市立海辺の多伎図書館っていうのがあるんです。これは白い壁の図書館で、壁が全部海向いてるんですよ。島根半島の先っちょで、ちょっとだんだん下がってますよね、南の方に。だからあそこから真西を見たらたぶん海に沈んでいくんじゃないかなと思うんですけども。ロケーション最高ですし、きっときれいな夕日が見れるんじゃないかなと思ってます。

糸賀：それは島根県の出雲市立？

小林：出雲市立。昔多伎町っていう町があって海辺の多伎図書館だったんですけど、今は

「出雲市立」が付いています。

糸賀：ありがとうございます。私行ったことないんですけども、金沢市の海みらい図書館でしたっけ。

猪谷：あります。夕日が見える可能性ありますか？

糸賀：でもあそこ、海に沈まない。西側は海に面してるんですか？

猪谷：私も実は行ったことがなくて。

糸賀：どなたか、会場でいらしたことがある方？

猪谷：気にはなってるんですよね。すごいフォトジェニックな図書館で。

糸賀：あそこも図書館がきれいということでよく紹介されますよね。でも、日が沈むときに行ってみないとわかりませんね。

私はもう実体験でさっき2つ挙げちゃいました。やはり因島だな。

猪谷：すごい。

糸賀：尾道市立因島図書館。

猪谷：さすが。

糸賀：絶対お薦めです、これは。

猪谷：ありがとうございます。

糸賀：じゃあもう一方お題を頂きたいと思います。今のような感じで結構です。他にいらっしゃいませんか？

会場：このライブラリーグッズはお勧め、というのがあったら教えて下さい。

猪谷：岩手県紫波町の図書館でオリジナルのトートバッグを出されてまして、デザインされたのが、芹沢銈介さんの流れをくむ方なんですよね。工藤館長、いらっしゃってますよね？

糸賀：紫波町の館長さん。



猪谷：ちょっとあのトートバッグのご説明をもしよかったら。すごいかわいいんですよ。

工藤館長：「しわ」には二つあるんです。紫波町は紫の波の町と書きますけれども、その中に「志す」「平和の和」の志和町というところがあります。紫波町は盛岡県南部なんですけれども、志和町は八戸南部藩の飛び地なんです。そこに染物屋を営んでおられる小田中耕一さんという方がいらっしゃいます。芹沢さんのお弟子さんで、そこでデザインなどをさせていただきました。町のオガールプロジェクトのデザインの方向に沿ったブックバッグなんですけど、残念ながらこないだ完売いたしました。

猪谷：そうなんですか。いや本当に2種類、白と濃紺とあってすごいかわいいかったです。

工藤館長：先週の28日に夜の図書館で民芸の久野恵一さんと小田中さんのトークイベントをしたんですけど、そのときに人気の紺のバッグは完売いたしました。まだ若干白い方は残っておりますので、これを機会にぜひ紫波にいらしていただいております。ついでに宣伝させていただきます、ありがとうございます。

猪谷：ありがとうございます。

糸賀：ありがとうございます。ぜひ一度機会を作って私も紫波町を訪ねたいと思います。館長さんもこれを機会にぜひ図書館海援隊に入らせていただきたく、よろしく願いいたします。ライブラリーグッズ。今説明を受けている間に一生懸命考えました。よく考えたら日本で一つ。あと海外です、ライブラリーグッズと言えば。国内の図書館では、例えば伊万里市民図書館では、有名な「図書館フレンズいまり」がよくできたバッグを売ってるんですよ。私も今日持ってくればよかったかもしれない。持ってます。

図書館でよく売ってるバッグって、図書館関係者にはいいけどもおよそ外へそれ持って歩くにはちょっと気恥ずかしいようなものも多いんですよ。でもアメリカのはセンスが良くてなかなかおしゃれです。バッグで一番いいのはニューヨークパブリックライブラリーです。黒と赤でシンボルマークのライオンが描かれてるあのバッグは持ってくりゃあよかったな、今日。あれはいいですよ本当に。その代わり結構高い。確か私の記憶では30ドルぐらいしたと思うんです。もちろんそれはたぶん一部寄付で図書館のファンドの方に行くんだとは思いますが、あれは良くできて。1回写真を撮っていて、図書館関係の研修会で映したことがあるんです。実はみなさんワーなんかおしゃれっていうふうに声を挙げた方もいらっしゃるぐらいあれは良くできていると思います。

では、猪谷さんは紫波町のトートバッグ。これをぜひ買い求めてみたい。でも今買えないとおっしゃったのでしょうか？もう売れ切れちゃった？

猪谷：白はまだ若干。

糸賀：白はある。白はあるということでぜひこれを買ってみたいという方は拍手をお願いします。(拍手) じゃあ私は、どっちかって言うとニューヨークの図書館の方かな。黒と赤の大変鮮やかな色で、デザインも良くできてるんです。これをぜひニューヨークに行って買ってみたいという方は拍手をお願いします。(拍手) 紫波町の方が多かったようですね。

猪谷：館長、ありがとうございます。

糸賀：でもこのまま終わったのでは、何で海援隊フォーラムのこれが第3部なのかよく分からない。

猪谷：そうですね。

糸賀：ということでいかがでしょうか。

猪谷：そうですね。ちょっと私この神代さんの本を拝見して、実はこの中に「つながる図書館」のことも書いていただいています。80ページあたりなんですけど、まえがきに図書館海援隊サッカー部が登場したと。感激したのもつかの間、本文にはそれ以上の紹介がなかったって書かれてしまって、本当に申し訳ありませんでした。

本当にこの本を書いてからよく言われるのが、どうしてあの図書館を取り上げなかったんですか、と。いろんな方に教えていただいて、素晴らしい図書館というのはよく存じ上げているんですけども、いかんせん時間とお金と体力がなくて、全部はさすがに回れずに、抽出させていただいて書いたんですが。

海援隊もただちょっと外から見ると、若干分かりづらい。先ほども属人なのか、組織なのかってお話あったかと思うんですが、若干分かりづらくなっていうところがあります。

ただこの最初のところに糸賀先生との出会いっていうところもありまして、24ページなんですけど、神代さんが糸賀先生に会いにいらして、「歴代の社会教育課長の中で直接私と話をしたいと言われたのはあなたが初めてです」と糸賀先生がおっしゃったって書いてあるんです。

糸賀先生にちょっとお伺いしたいのは、この図書館海援隊の取組は、先生からご覧になって、また関わられて、どういうものなのか。かつ、最後に期待をされる部分ってというのはどういうところなのかをちょっとお伺いしたいなと。

糸賀：神代課長との出会いってというのは数年前だからさすがに私もよく覚えておりますけれども、あのとき確かにこれに書いてあるとおりで課長と1対1で会うってことは歴代の社会教育課長ではほとんどありません。なかったです。大体課長さんの中には、特に図書館法改正のときなんかは、私といろいろとちょっと細かいとこ詰めるっていうことをされた課長さんもいるんですが、そのときだって大体は補佐とかあとには図書館振興係長も同席ですよ、普通は。だけどあのとき神代課長はお1人でいらして私も1人で、本当に1

対1で差しで話し合ったんですよ。

その後さっき第1部で神代課長が言われるように鳥取県立図書館のフォーラム、先ほど高橋真太郎さんが説明されたイベントに行き、あの日の夜だと思えます。一次会は型通り終わって二次会がどっかの居酒屋であって、そこからたぶん図書館海援隊が芽生えてきたんだろうと思います。そういう酔った勢いでやってるようなところもありますし、これ別に会則があるとかそういうわけじゃない。さっきおっしゃったとおりで、どちらかと言うと図書館が加盟するんじゃないかと個人加入じゃない？だから私なんか図書館に勤めてない人間は図書館海援隊の隊員なのか、それとも加盟してないのかよく分からない。だから海援隊に入ってるのか入ってないのか。だから猪谷さんもそうですね。

猪谷：入れないんですか？

神代：大丈夫です。

猪谷：大丈夫ですか。ありがとうございます。

糸賀：大丈夫ですか。

猪谷：何を活動すればよく分からないですが。

糸賀：どういうステータスを与えてくれるのかよく分かりませんが。

本当は、第3部は今気が付いたんですが図書館海援隊への期待という。

猪谷：そこなんです。私たちに与えられたテーマは。

糸賀：今気が付いた。そうだったんですか。私てっきり本当大喜利やってればいいんだと思ってたんで失礼しました。

海援隊はさっきいろいろとご意見もありましたけども、結局はかなり緩い集まりなんですよ。もう緩いんですよ。だから規則もない。まして年に1回総会を開くとかってということもない。今日のこのフォーラムが言ってみれば総会なのかもしれませんが、何かここで決議をすれば、今日日比谷公園の外では労働組合がいろいろやっていますけども、ここで海援隊フォーラムとして何かを議決するとかっていうわけでもない。そういう緩いつながり。今ゆるキャラって方々にあります。言ってみれば「ゆるつな」なんですよ。

猪谷：「ゆるつな」。

糸賀：「ゆるつな」。この「ゆるつな」が海援隊のいいところだと思います。だからあんまりきつちりと決めない。隊長が文部科学省のキャリアの課長であるにもかかわらず、その辺りがすごく緩い集まりでどこからどこまでが海援隊でここから外は海援隊じゃないとか

ってというのがはっきりしない。それが私は持ち味で長く続く秘訣なんだろうと思います。だからこれからもあまり肩肘張らずにこうやって明るく楽しくみんなが集まって、図書館のことを考えて図書館の良さを多くの人に知ってもらおうというような活動をしていってほしいな、というのが私のささやかな期待です。

猪谷：じゃあ、私の方からも一言だけ言わせていただくと、TRCさんとかを取材することがあるんですけど、あそこは結構指定管理者を取っていたりして、図書館で働くスタッフを大勢抱えています。しかも、それが全国にまたがっていて、彼らは何をしてるかという、社内SNSみたいなイントラで、非常に細かい例だと、ぬいぐるみのお泊まり会をやるときにはこういうノウハウがありますって1個の図書館が情報発信する。すると、それがバーッと全国のTRCの受託館に広まるわけですよ。そういうことが、指定管理者だとTRCさんの場合は規模が大きいのでできてしまうんです。

逆に言うと、自治体直営だとなかなかそれが難しいんじゃないかっていうことを取材して感じていて、こういう海援隊とかで先ほど先生がおっしゃったように横でゆるくつながる。しかも、正面切って名刺交換して「私この図書館の者ですが、ちょっとぬいぐるみのお泊まり会についてのノウハウを」っていうよりは、例えばフェイスブックでメッセージを飛ばして、「こんなことをやりたいんだけどどう思う？」って聞ける関係づくりがすごく大事だなって思うんです。そういうことが図書館をどんどん強くしていくんじゃないかなと思いますし、海援隊はその核になるんじゃないかなと思います。なのでこれからもぜひ、現場の方々はずごい厳しい状況でいろいろあるとは思いますが、がんばっていただきたいなと思います。

糸賀：うまく最後にまとめていただきましてほっとしました。最後に私から今後の海援隊の期待と同時に猪谷さんにもますます活躍していただきたいんで、これからの図書館界をいろんな形で売り込んでいただく。私は私でいろいろと役割は果たしてきたつもりですので、最後これで締めくくりたいと思います。

猪谷：たぶん先生は出ずっぱりですよ、これ以外にも。出ずっぱりでお忙しいから、私もこの間先生の代打でNHKラジオで図書館についてしゃべったんですけども、そのときにいくつか挙げた中に、千代田図書館があったんです。ビジネスパーソン向けのサービスやっていますって。

その放送の数日後ですか、千代田図書館の方からメールが来まして、取り上げていただいたそうでありありがとうございました。実は利用者の方が一生懸命、ラジオの内容をメモして、あんたたちのことを話してたよって持ってきて下さったって言うんですよ。それが、図書館の中の人たちにとってうれしかったと言っていました。

先生も私も外からですけども、図書館を非常に応援してまして、どんどん声を大きくして、こんないい図書館があるとか、こんなすばらしい取組があるとか、こんな可能性もあるとか言ってまいりますので、図書館の中の方にもぜひそれに応えていただければうれしいなと思います。

糸賀：ということで何だかよく分からないうちに図書館海援隊への期待を語り合ったと。

猪谷：はずです。

糸賀：少なくとも私はやっててすごく楽しかったです。ありがとうございました。

猪谷：ありがとうございました。

糸賀：会場のみなさんにもご協力いただきましてどうもありがとうございました。